

平成16年度 文部科学省助成

ITを活用した生涯学習事業プランニング講座

第1講

ITを活用した新しい事業のあり方について

第3回 「情報化による生涯学習の変化を背景に置く」

山 本 恒 夫

やしま

八洲学園大学教授・筑波大学名誉教授

財団法人 日本視聴覚教育協会 JAVEA

< 情報化による生涯学習の変化 >

1 . 自由度の増大

生涯学習社会の考え方にある「生涯のいつでも、どこでも自由に」というときの生涯、時間、空間に関しては、自由度が増大するであろう。外出が困難になった在宅高齢者に象徴されるような年齢的制約からの解放が進み、さらに、時空の制約からの解放が進むであろう。

生涯学習社会	情報化による変化	従 来	未 来
生涯のいつでも どこでも自由に	「自由度の増大」	・ 時間・空間的な 制約あり (地域の講座など)	・ 時空の制約を 超えた学習 (オンデマンド学習など)

２．学習資源の増大と、選択幅の拡大

「学習機会を選択して」というところでは、ＩＴ化による学習機会等（学習コンテンツを含む）の増大が学習資源の増大と選択幅の拡大をもたらしてくれるであろう。

生涯学習社会	情報化による変化	従来	未来
学習機会を	「学習資源の増大」	・限られた学習機会 (講座・通信教育など)	・多様化・高度化する学習ニーズに応える学習機会等の増大 (遠隔教育・ハイパーテキストなど)
選択して	「選択幅の拡大」	・機会の利用 ・提供された学習	・豊富な学習機会 ・コンテンツ等から選択

3 . メディア型学習の導入と、学習観の転換

「学ぶことができ」ということに関しては、伝統型学習に加えて、さまざまなメディア型学習を行うことが可能になることにより、伝統型学習とメディア型学習を融合した学習が広がるであろう。

また、学習観の転換も生じるであろう。

生涯学習社会	情報化による変化	従来	未来
学ぶことができ	「メディア型学習 の導入」 「学習観の転換」	・伝統型学習中心 (講義・実験・実習・ 見学など) ・知識・技術の習得	・メディア型学習と 伝統型学習の融 合・情報を利用した 知識・技術の創造

4 . 学習歴の重視

「その成果が適切に評価されるような」というのは、このように拡大されたさまざまな学習の成果が適切に評価されるということである。したがって、そのような社会では、学校歴中心ではなく、学習歴が重視されるようになるであろう。そして、豊富な情報を利用した知識・技術の創造が行われるようになるに違いない。

生涯学習社会	情報化による変化	従来	未来
その成果が社会で適切に評価されるような社会	「学習歴の重視」	・学歴重視	・多様な学習成果の評価を利用した生涯学習歴の重視

＜表・全体のまとめ＞

生涯学習社会	情報化による変化	従来	未来
生涯のいつでも どこでも自由に	「自由度の増大」	・ 時間・空間的な 制約あり (地域の講座など)	・ 時空の制約を 超えた学習 (オンデマンド学習など)
学習機会を	「学習資源の増大」	・ 限られた学習機会 (講座・通信教育など)	・ 多様化・高度化する学 習ニーズに応える学習 機会等の増大 (遠隔教育・ハイパーテキス トなど)
選択して	「選択幅の拡大」	・ 機会の利用 ・ 提供された学習	・ 豊富な学習機会 ・ コンテンツ等から選択
学ぶことができ	「メディア型学習 の導入」	・ 伝統型学習中心 (講義・実験・実習・見学など)	・ メディア型学習と 伝統型学習の融合
	「学習観の転換」	・ 知識・技術の習得	・ 情報を利用した 知識・技術の創造
その成果が社会で 適切に評価される ような社会	「学習歴の重視」	・ 学歴重視	・ 多様な学習成果の 評価を利用した 生涯学習歴の重視

平成16年度 文部科学省助成

ITを活用した生涯学習事業プランニング講座

～次回講座のお知らせ～

第2講

ITを活用した事業の展開

第1回「IT活用事業のタイプ」

は、11月22日(月)より配信となります。